

厚生労働省 平成 25 年度障害者総合福祉推進事業

「舞台芸術の鑑賞と表現における社会参加の課題と提言」

施設およびその管理者に対するアンケート調査 調査票

舞台芸術が鑑賞できる全国の施設、およびその管理者を対象に、会場のバリアフリーの状況、障がい者の受け入れについての調査です。今後、障がい者や高齢者の観客の増加が見込まれますので、ご協力のほどなにとぞよろしくお願い申し上げます。

施設名	
-----	--

※同一施設内に複数の会場がある場合、最大規模の会場について回答ください

●該当する項目の□に✓、または記述してください

○ 施設の基本情報について

0-1. 施設の種類

☐コンサートホール ☐ライブハウス ☐イベントスペース
☐劇場 ☐その他（ ）

0-2. 施設設置者（または所有者）

☐国 ☐都道府県 ☐市町村 ☐公益法人 ☐民間企業
☐第3セクター ☐NPO法人 ☐個人 ☐その他（ ）

0-3. 施設運営管理者

☐国 ☐都道府県 ☐市町村 ☐公益法人 ☐民間企業
☐第3セクター ☐NPO法人 ☐個人 ☐その他（ ）

0-4. 施設築年数

☐1年未満 ☐1～5年 ☐6～10年 ☐11～20年
☐21年～30年 ☐31年～40年 ☐41年以上（何年？ ）

0-5. 施設面積

() m²

0-6. 収容人数

() 名

0-7. 施設の使用頻度（興行、準備、一般利用を含む）

- ☐ほぼ毎日 ☐週に3～4日程度 ☐週に1～2日 ☐月に2～3日
☐それよりも低頻度 ☐その他（ ）

○ 障がいのある観客への対応について

1. 障がいのある観客を受け入れていますか？

- ☐はい ☐いいえ ☐状況に応じて

「いいえ」 または 「状況に応じて」 と答えた方にお聞きします

1-1. その理由は何ですか（複数回答可）？

- ☐施設にバリアが多い ☐施設が狭い ☐安全を確保できない
☐対応の仕方がわからない ☐他の客から苦情がある
☐障がいのある観客の利用、または利用希望がない
☐その他（ ）

2. 観客席に車いす用の観覧スペースを設置されていますか？または、可動式座席等により設置することは可能ですか？

- ☐はい ☐いいえ

3. 車いす用の観覧スペースまで段差なしで行けますか？

- ☐はい ☐いいえ ※2cm以内であれば段差なしとみなします

4. 楽屋まで車いすのまま段差なしで行けますか？

- ☐はい ☐いいえ ※上に同じ

5. ステージまで車いすのまま段差なしで行けますか？

- ☐はい ☐いいえ ※上に同じ

6. バリアフリートイレは設置されていますか？

☐はい ☐いいえ

7. 障がいのある観客へどのような配慮をされていますか（複数回答可）？

☐エレベーターの設置 ☐障がい者用駐車場の設置
☐補助犬の受入れ ☐車いす経路の案内表示の設置
☐点字案内 ☐点字ブロックの設置 ☐可動式座席の設置
☐磁気誘導ループ（補聴器に音声を送り込む補聴支援システム）の整備
☐音声解説設備の設置
☐その他（ ）

8. 障がいのある観客の対応について施設管理運営スタッフに対してどのような教育をされていますか（複数回答可）？

☐口頭による説明を行っている ☐共通マニュアルに記載している
☐特別に対応マニュアルを作成している
☐手話・車いす講座等社内研修での教育
☐同講座等社外研修の受講料の援助
☐その他（ ）
☐特にしていない

9. その他障がいのある観客を受け入れるにあたって、特筆すべきことがあれば、記入してください。

ご協力ありがとうございました。

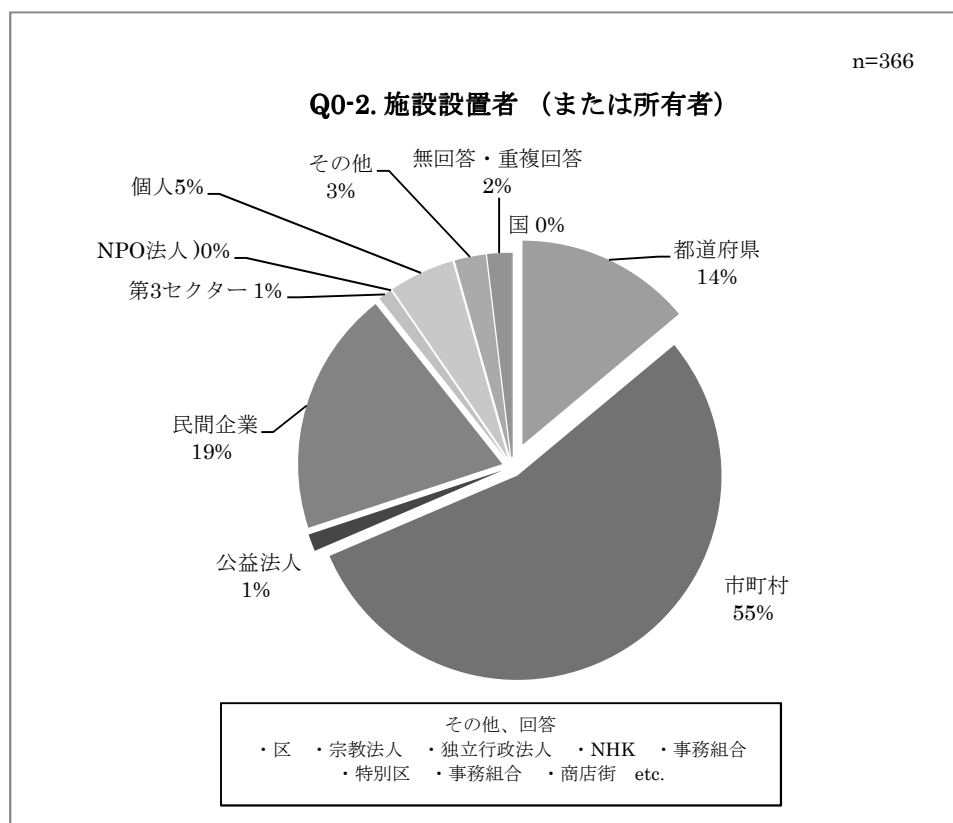
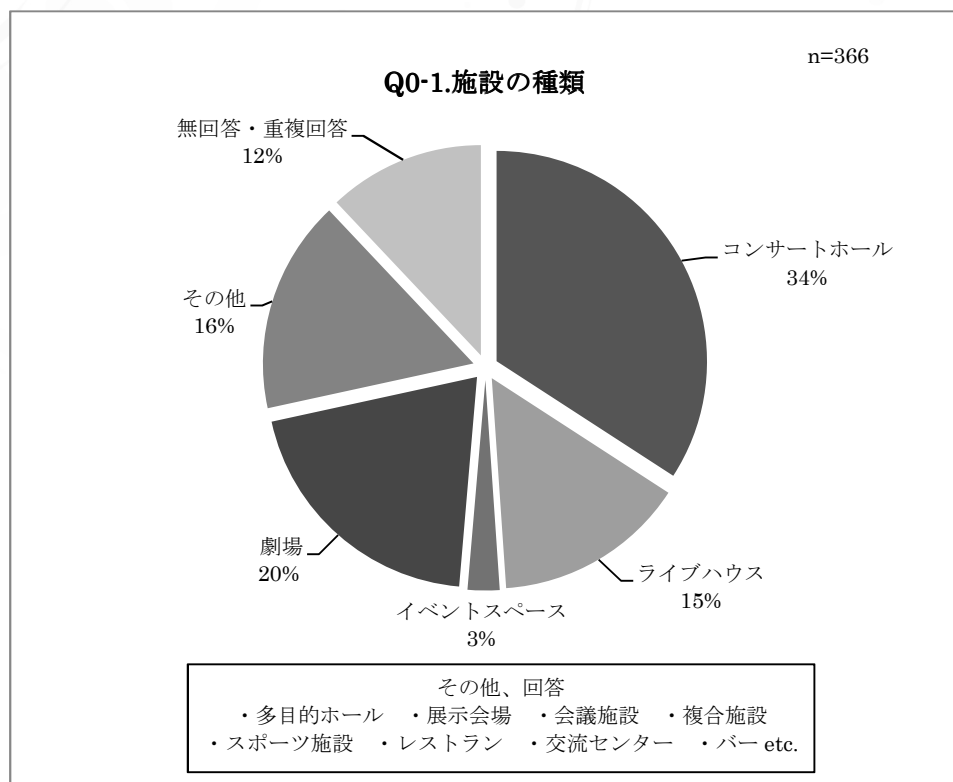
お問い合わせ：

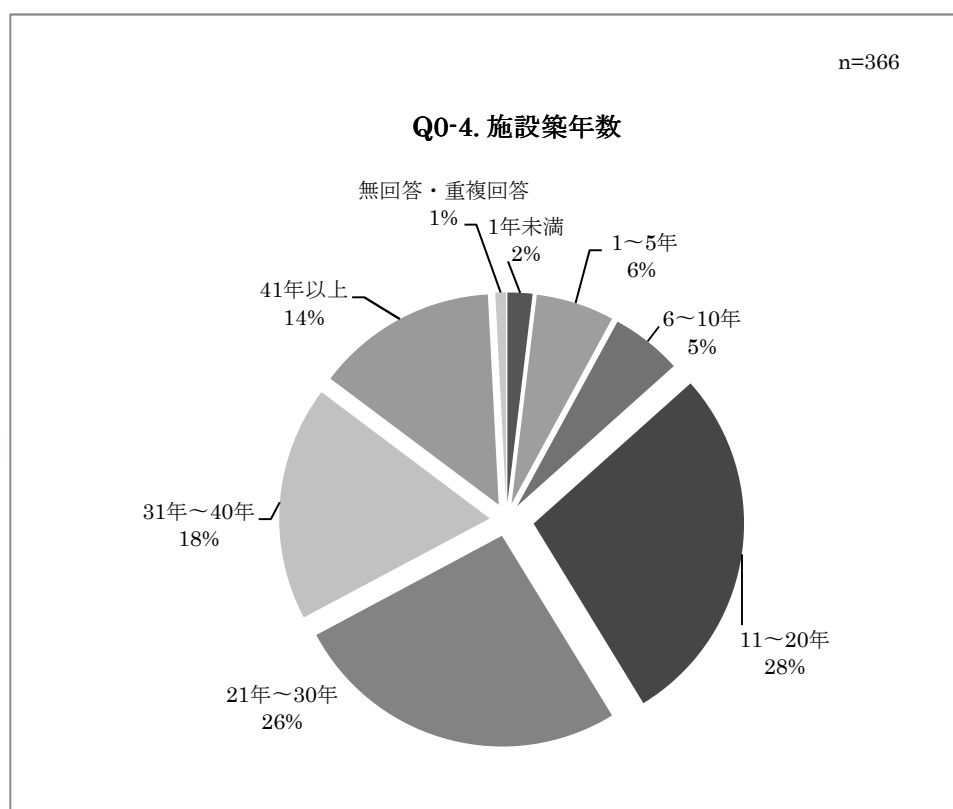
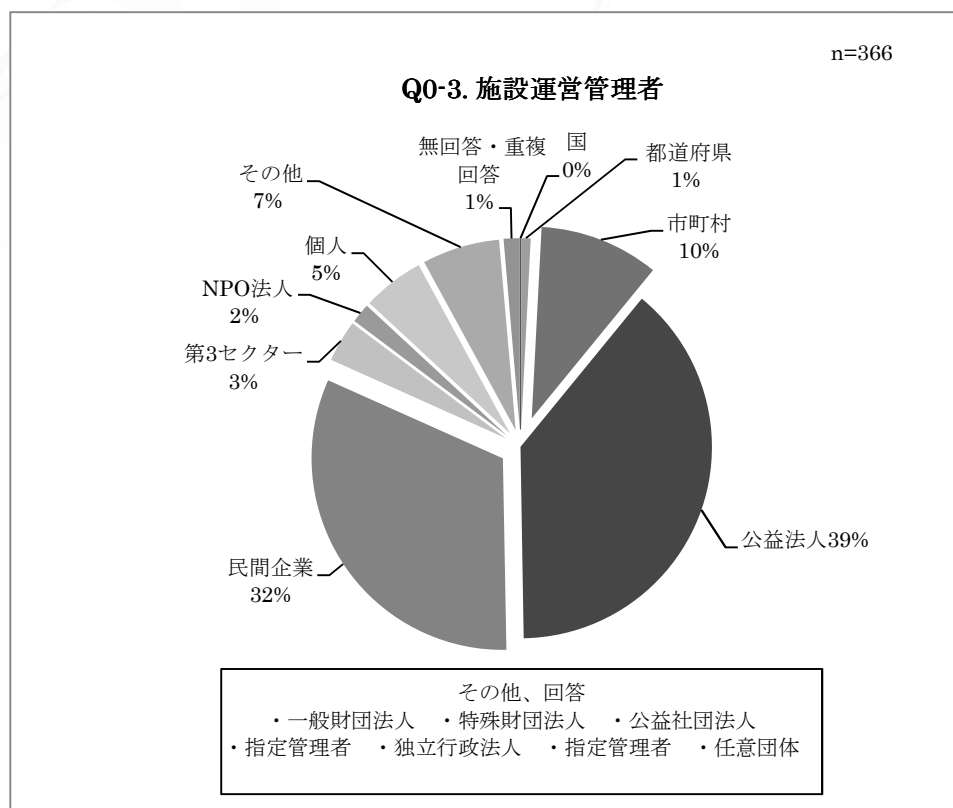
NP0法人日本バリアフリー協会

e-mail: research@npojba.org

※本調査はNP0法人日本バリアフリー協会が、厚生労働省の委託を受け実施しております。

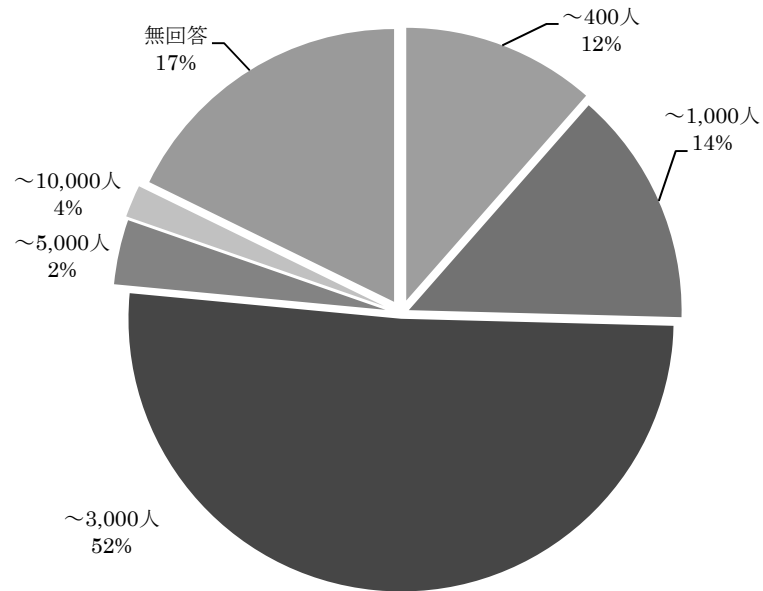
3)会場アンケート 集計





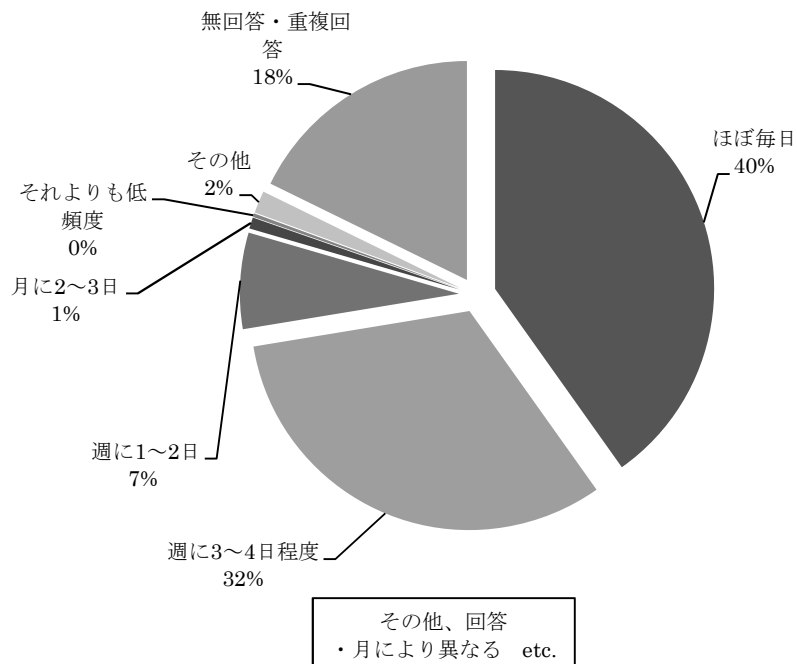
Q0-6. 収容人数

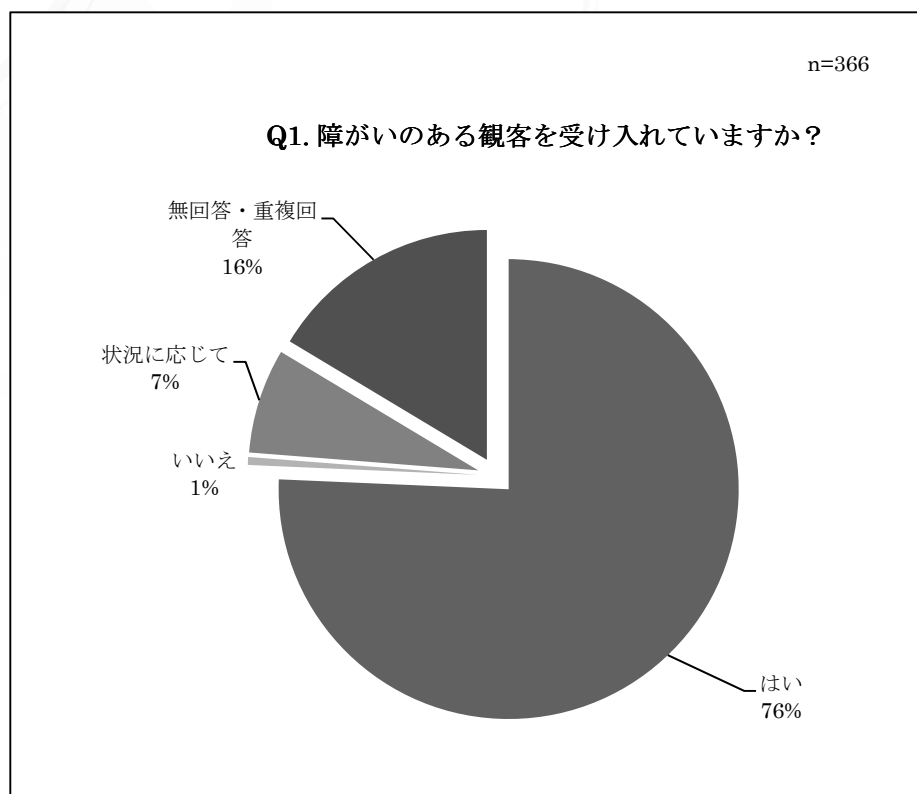
n=366



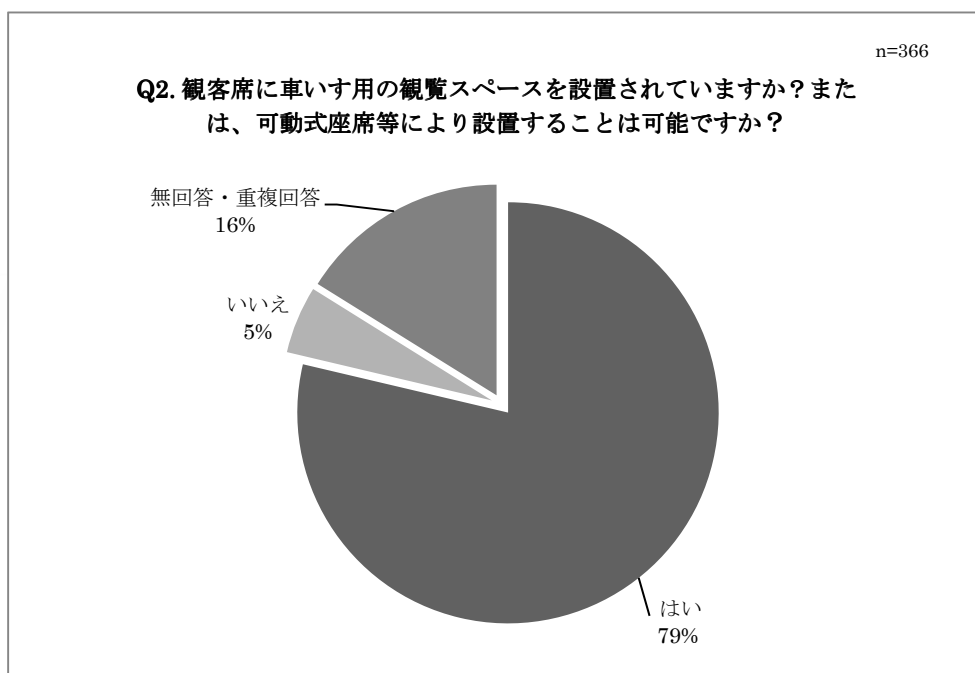
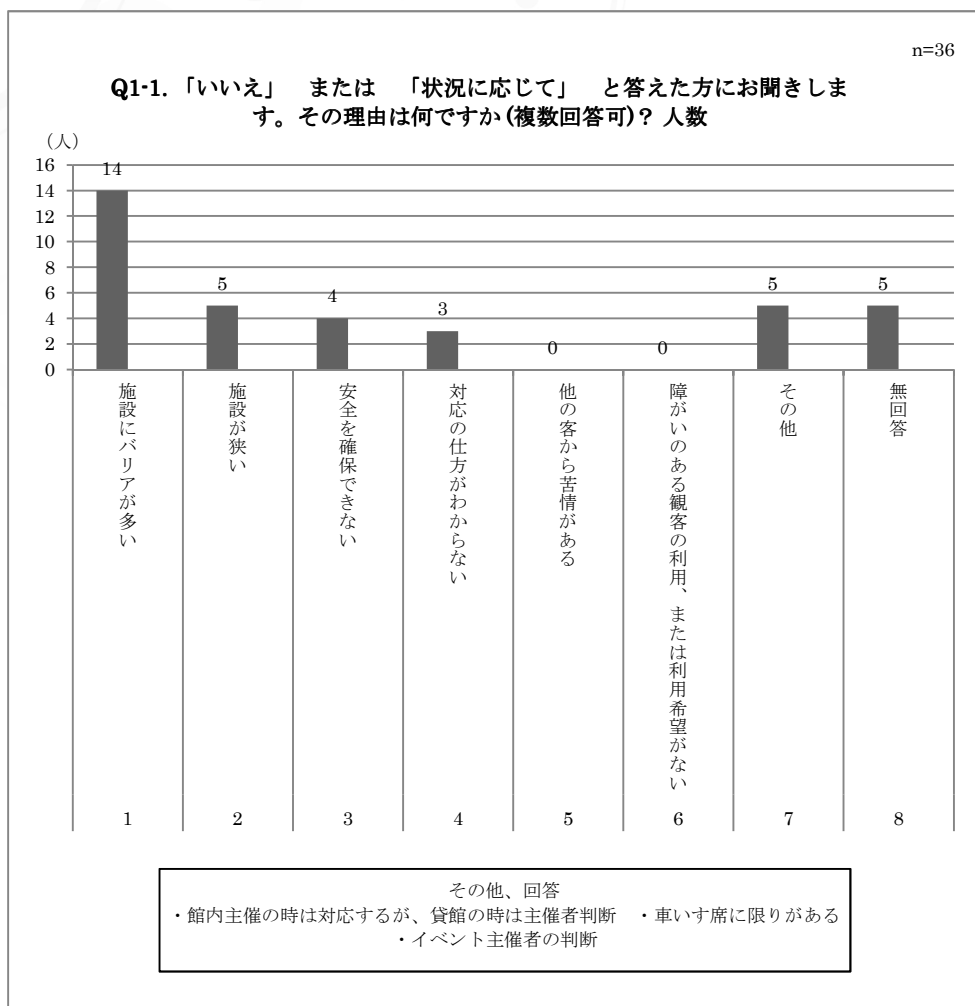
Q0-7. 施設の使用頻度

n=366



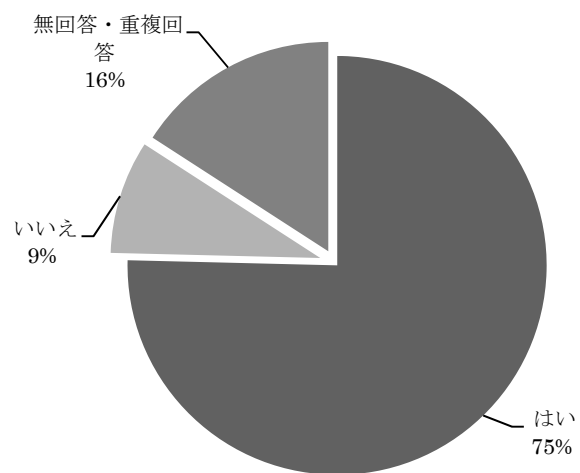


次の「1.1 「いいえ」または「状況に応じ」と答えた方にお聞きします。その理由はなんですか？」については、上記した集計結果「1.障害のある観客を受け入れますか？」に対して、「いいえ」もしくは「状況に応じて」と回答した 36 アンケートを集計。



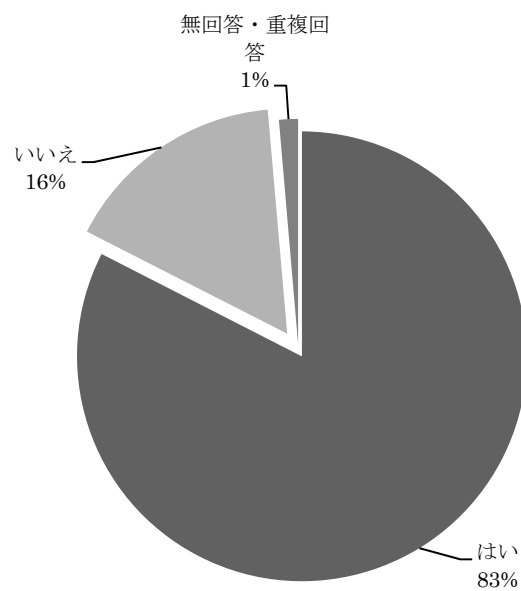
n=366

Q3. 車いす用の観覧スペースまで段差なしで行けますか？



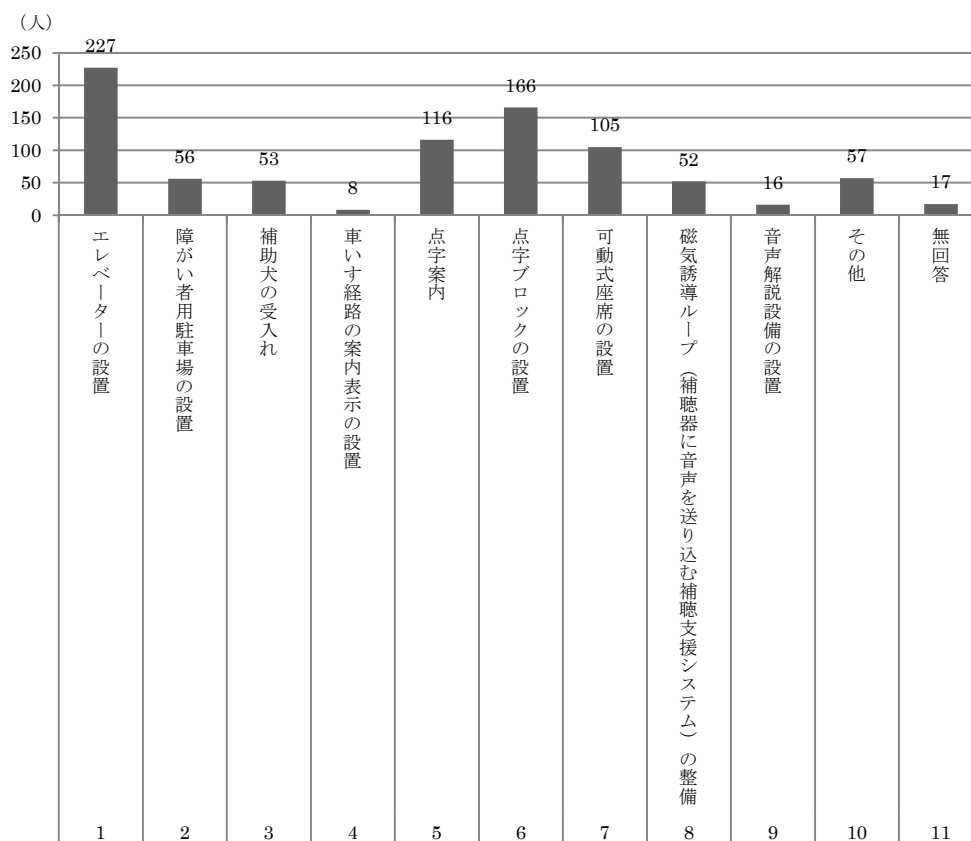
n=366

Q6. バリアフリースイレは設置されていますか？



n=366

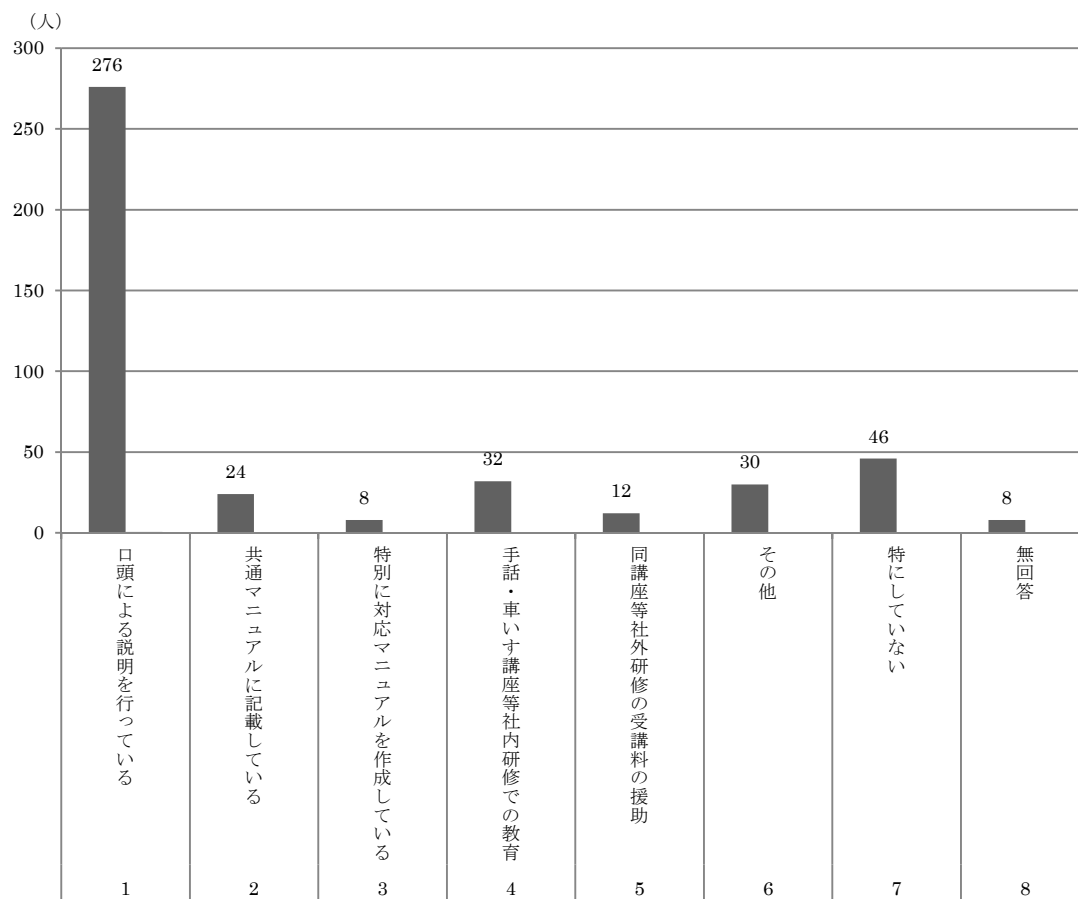
Q7. 障がいのある観客へどのような配慮をされていますか（複数回答可）？



その他、回答
 ・会場主催の場合は介助者分のチケット無料
 ・筆談ボードの設置 ・人的対応 ・スロープの設置 ・自動ドアの設置
 ・イベント主催者との連帯 ・点字案内 ・段差解消機の設置 ・補聴システム
 の設置、貸出・客席内移動用リフターの設置 ・車いす専用席 ・車いす用出入り口
 etc.

n=366

Q8. 障がいのある観客の対応について施設管理運営スタッフにたいしてどのような教育をされていますか（複数回答可）？



その他、回答
 ・事前の打ち合わせ ・サービス介助士取得の推奨と保有
 ・駐車場無料 ・車いす貸出 ・研修会の実施 ・人的対応
 ・案内業者に委託 ・避難マニュアルの作成

9. その他障がいのある観客を受け入れるにあたって、特筆すべきことがあれば、記入してください。

電話で問い合わせがあれば事情をお聞きし、その方に合った対応する。
障がいのある方がご来場の場合、可能なぎりスタッフが席の案内。
車いすの方が来た場合は STAFF で中に移動する手伝いをいたします。
ホール利用日の約1ヶ月の打ち合わせにおいて、車イス等の入場状況を確認し、車イス席の対応について主催者に説明する。
駐車場の確保、車椅子用電動リフトの操作等、ソフト面での対応に注力している。
エレベーター設備のない施設のため、車いす用観覧スペース以外での観覧はできない。
演歌系のコンサートなどは身障者手帳をお持ちの方だけで駐車場が 20 台近く必要な場合があるため事前にご連絡を頂くことで駐車場が確保出来るようご案内をしている。
貸出用車椅子 2 台常備
駐車スペースの確保が必要な場合には、事前に連絡があると、対応がスムーズにできる。
車イスのまま階段の昇降が出来る。段差解消機の設置。また、その操作方法を学んだり、情報交換等の社内研修を年数回実施。
レセプション（客席案内係）とホール職員が、予め、障がいのある観客について情報共有し、当日の対応について細やかに行っている。
白杖のお客様がご来場の場合、お帰りの際にご希望があれば建物外の横断歩道まで案内。
障がい者割引サービスの公演あり
生命維持装置を装備して入場されるお客様に対して、電源供給を用意。
主催事業の時には、事前の連絡、問い合わせ等の情報をもとに、対応スタッフの割り振りをして、対応している。
本人、介助者との事前打ち合わせをしている。
駐車券無料
主催事業は、第 1 種の方及びその介添のかた 1 名分は半額で販売している。
車椅子での客席入場は、一度外に出てスロープ部から。楽屋も同じ。
スタッフのサービス介助士取得。
スタッフの人力で出来る限りのサービス。
自主公演の際は、優先的に入場してもらう。
車椅子のお客様対応、福祉研修の実施
受け入れ態勢を充実させるため、施設改修が必要であるが、財政的に厳しい面もあり、早急な対応ができず申し訳なく思っている。
公衆電話は車いす利用者が使用できる高さに配慮している。
数台ある自動販売機の 1 台は硬化投入口を低くし、広い受面のものを設置している。
受付カウンターは車いす利用者も受付できるよう、座位用カウンターも併設している。
会館後 25 年が経過しており、現在の水準では、バリアフリー化が遅れている。
身体障害者用駐車場に、介助を必要とする方向けの「職員呼び出しボタン」の設置（平成 26 年 2 月予定）
主催者等に車いすの貸し出しをしている。
主催者に手話通訳、要約筆記等配慮するようお願いしている。

ホームページに障がい者用駐車場からの導線などの情報を提示している。
職員等が、会場入り口の客席までの案内、誘導をおこなっている。
狭いライブハウスなので、障がい者を受け入れる態勢を整えるのが難しい。
車いすなど、障がいのある方がご来店の際には、スタッフが協力して、常識と善意ある対応をしている。
避難訓練における車いす使用者の運搬
当店は2階にあり、建物自体にエレベータやエスカレータがない。

③催事の施設の現地聞き取り調査

1)調査概要

当法人の電動車いす使用の代表理事である筆者が実際に、舞台芸術の催事が開催される施設を訪れて、見学をしながら、管理者から聞き取りの調査をした。

調査対象施設は、全国の地域、規模がバランスよくるように16件選定し、電話で現地調査日時のアポイントをとった。

ただ、電話での調整の段階で、小規模施設においては、階段や段差があるケースが多く、電動車いすによる調査を断念するケースが10件を超えるほどあった。

なお、調査の内容の一部は、2章 障がい者が舞台芸術の「表現者として演ずる」に関するものであるため本章においては、分析を行わない。

特に質問項目のガイドラインは作成せず、1000人規模のコンサートを毎年10年に渡り主催してきた車いす使用者の筆者の経験をいかして、質問をした。

表 1-3：現地聞き取り調査 実施会場一覧

都道府県	会場・施設名	収容人数	都道府県	会場・施設名	収容人数
沖縄	LIVE HOUSE Mod's	立:300	埼玉	さいたまスーパーアリーナ（メインアリーナモード ※1）	立:26,000
		座:120			座:16,000※2
東京	studio coast	立:2,400	東京	東京国際フォーラム（ホールA）	座:5,012
		座:1,000			
東京	zepp ダイバーシティ	立:2,107	福岡	パピオン 24 ガスホール	座:503 席
		座:888			
福岡	エルガーラホール	座:654	福岡	ビブレホール	立:250
					座:150
長野	軽井沢大賀ホール	立:なし	大阪	サンケイホールブリーゼ	座:912
		座:818			

沖縄	沖縄コンベンションセンター(劇場棟)	座:1,709	京都	モダンタイムス	座 : 80
沖縄	ミュージックタウン音市場	立:1,100	長野	友愛ホール(軽井沢友愛山荘)	座 : 55
		座:489			
石川	金沢文化ホール	座:903	沖縄	ぎのわん海浜公園 屋外劇場	立 : 1,200
					座 : 2,300※3

※1 さいたまスーパーアリーナは、コンサートなど舞台芸術の際、「メインアリーナモード」と呼ばれる形態で行うことが多い。

※2 さいたまスーパーアリーナでは座席と立見スペースの両方があるため、総収容人数は座席と立見合わせて 42,000 人

※3 座席と立見スペース両方があるため、総収容人数は 34,000 人。

2)調査結果

現地聞き取り調査は、担当した方が施設を案内してくれるなかで、質問させてもらうという形式で行った。

調査対象施設においては、基本的に障がいをもつ観客を積極的に、受け入れていく方針を持っているところが、多かった。

特に、バリアフリー化の方向性についても意識は強く、観覧スペースのバリアフリー化はもちろん、バリアフリースイレについても予算等制約のある中で取り組んでいるところが多かった。

写真 1 : スロープ①



写真 2 : スロープ②



写真 3 : スロープ③

